

2014年3月期第2四半期決算説明会資料

2013/10/25

 株式会社日立ハイテクノロジーズ

執行役社長 久田 真佐男

執行役常務 宇野 俊一

2014年3月期第2四半期決算説明会資料

I 2014年3月期第2四半期累計期間 決算概要

II 2014年3月期 経営方針と進捗状況

III 2014年3月期 業績予想

IV 参考:データ集

I

2014年3月期第2四半期累計期間 決算概要

(注)YY/MはYY年M月期を表しています。
(e)は、前回予想(2013年7月公表値)

2014年3月期第2四半期累計期間決算(ハイライト)

(億円)

	当期実績	前年同期比		前回予想比	
		増減額	増減率	増減額	増減率
売上高	2,907	△200	△6%	+7	+0%
営業利益	63	△97	△61%	+1	+2%
経常利益	66	△99	△60%	+3	+5%
当期利益	36	△75	△68%	△2	△6%
一株利益	26円10銭	△54円67銭		△1円53銭	
一株配当	10円00銭	±00円00銭		±00円00銭	
FCF	+27	△12		+18	

・前回予想(2013年7月公表値)

2014年3月期第2四半期累計期間決算(偏差説明)

売上高・営業利益 偏差説明(2013年7月1Q決算発表時比較)

売上高 (2,900億円 → 2,907億円 +7億円)

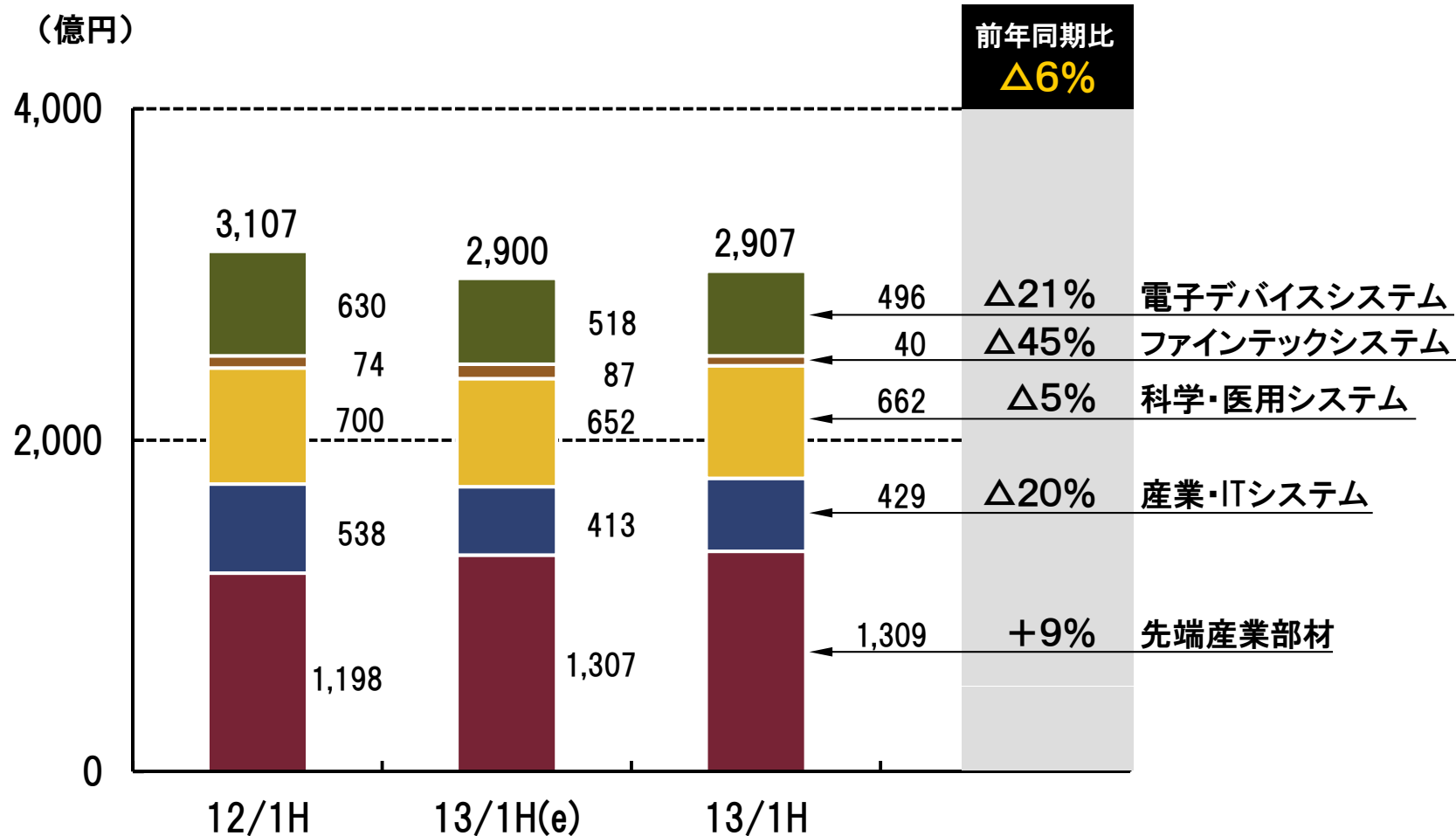
- 電子デバイスシステム: 評価装置の出荷時期変更等により22億円減少
- ファインテックシステム: FPD関連製造装置の計上期ズレ等により47億円減少
- 科学・医用システム: 海外市場向け医用分析装置の回復等により11億円増加
- 産業・ITシステム: 米国市場向け携帯電話の新モデル投入等により16億円増加

営業利益 (62億円 → 63億円 +1億円)

- 電子デバイスシステム: 部品・サービス(プロセス製造装置)の積上げ等により3億円増加
- ファインテックシステム: 上記と概ね同様の理由により14億円減少
- 科学・医用システム: 上記と概ね同様の理由により12億円増加

2014年3月期第2四半期累計期間決算(売上高)

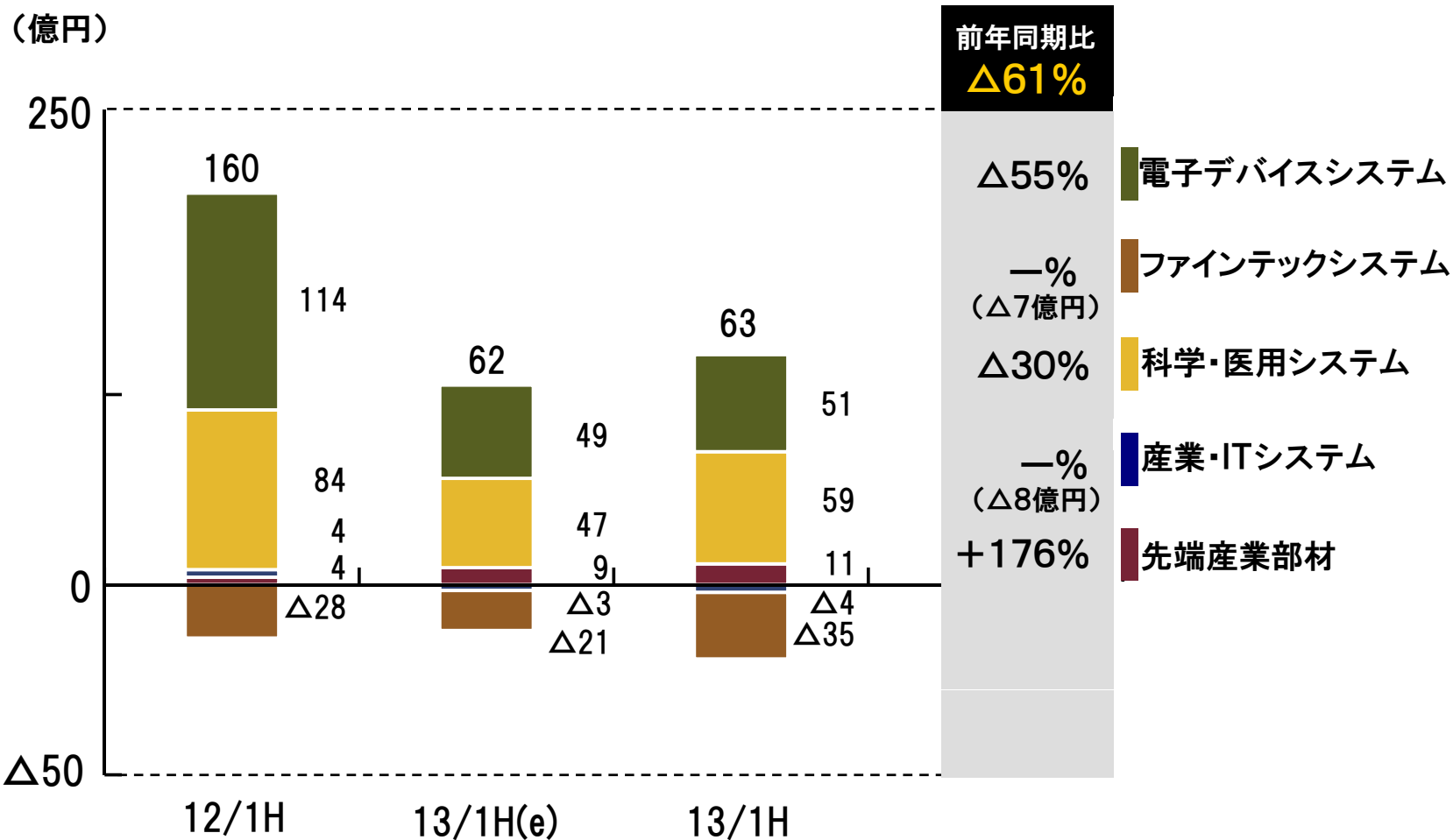
売上高



(注)合計にはセグメント間の内部取引の消去等が含まれております。

2014年3月期第2四半期累計期間決算(営業利益)

営業利益



(注)合計にはセグメント間の内部取引の消去等が含まれております。

2014年3月期第2四半期累計期間決算(貸借対照表〔要約〕)

2013年9月末 (億円)

			13/3末比				13/3末比
流動資産		3,392	+86	流動負債		1,457	+84
現預金、関係会社預け金	1,138	△43		支払手形および買掛金	905	+61	
受取手形および売掛金	1,121	+14		その他	552	+23	
たな卸資産	772	+69		固定負債		585	+293
その他	360	+45		退職給付に係る負債	567	+302	
固定資産		1,183	+153	その他	18	△8	
有形固定資産	738	+74		純資産		2,533	△139
無形固定資産	133	△6		株主資本	2,637	△1	
投資その他の資産	312	+85		その他の包括利益 累計額合計	△110	△139	
				少数株主持分	6	+2	
資産合計		4,575	+238	負債および純資産合計		4,575	+238

・一株当たり純資産 1,837円47銭(13/3末比 △102円34銭)

・自己資本比率 55.2%(13/3末比 △6.3%)

2014年3月期第2四半期累計期間決算 (キャッシュ・フロー計算書〔要約〕)

(億円)		13/1H			13/1H
営業活動による キャッシュ・フロー		+78	財務活動による キャッシュ・フロー		△22
	税引前利益	+66		配当金の支払	△14
	減価償却費	+44		その他	△8
	運転資金	△26	換算差額		+14
	法人税等支払額	△27			
	その他	+22			
投資活動による キャッシュ・フロー		△51			
	有価証券の取得・売却	+1			
	固定資産取得・売却	△84			
	その他	+32			
フリー・キャッシュ・フロー		+27			
			13/1H		
			現金および現金同等物		
			期首残高	1,235	
			増減額	+19	
			期末残高	1,254	

Ⅱ

2014年3月期 経営方針と進捗状況

1. 成長分野へのリソースシフトによる事業ポートフォリオの強化



ライフサイエンス

- 英国Base4社と共同技術開発契約を締結
- ➡ ナノポア型次世代DNAシーケンサ技術の共同開発を開始、臨床検査向け製品を開発

- 米国ナノスフェア社の細菌遺伝子検査装置および試薬の日本国内における総販売代理店契約を締結
- ➡ 遺伝子解析の研究用途向けに販売を開始、体外診断用検査薬を開発・導入



ナノスフェア社製
「Verigeneシステム」



社会イノベーション/環境・新エネルギー

- ファインテックシステムにおける新規事業の立ち上げ
- ➡ FA関連装置、プリンテッドエレクトロニクス、鉄道検測装置等

- 日立グループとの連携による社会イノベーション事業の推進
- ➡ 日立グループ商社としての販売・調達事業拡大



次世代エレクトロニクス

- 伸長市場における事業拡大
- ➡ ウエハー外観検査装置、有機EL関連製造装置、ポストセールス等

2. グローバル事業の拡大



海外拠点

- インドに現地法人を設立(2013年4月)
➡ インフラ設備、自動車・製薬市場等での事業展開
- ロシアに現地法人を設立(2014年1月予定)
➡ 社会インフラ、自動車、建設機械市場等での事業展開



日立ハイテクインド会社の
オフィスが入っているビル



製造拠点

- 那珂地区におけるロジ製造棟を竣工(2013年10月)
➡ リードタイムの大幅な短縮と高効率生産を実現
- 中国・蘇州における工場の拡張(2013年12月予定)
➡ 医用分析装置等の増産および生産品目の拡張



那珂地区 ロジ製造棟

3. 開発のスピードアップによる事業創造の推進



電子デバイスシステム

- エンジニアリングサイト増強・拡充による開発初期からの顧客とのコラボレーション強化
 - ➡ プロセスエンジニアリングセンタ(米国オレゴン州)
 - デモンストレーションラボ(米国テキサス州)
 - プロセスイノベーションセンタ(台湾新竹市)



プロセスエンジニアリングセンタ



科学・医用システム

- 分析装置事業の設計および国内販売機能を、日立ハイテクサイエンスに統合(2013年10月)
 - ➡ グループに分散する機能を集約し、事業一貫体制を構築することにより、効率化・全体最適化をめざす
- 米国OpGen社とヒトゲノム構造解析サービス事業に関する共同技術開発契約を締結(2013年10月)
 - ➡ 全ゲノムマッピング技術によるゲノム配列の正確性評価を活用したサービス事業立ち上げ

Ⅲ

2014年3月期 業績予想

(注)YY/MはYY年M月期を表しています。
(e)は、前回予想(2013年4月公表値)
(e1)は、今回予想(2013年10月公表値)

2014年3月期業績予想(ハイライト)

(億円)

	当年度予想	前年同期比		前回予想比	
		増減額	増減率	増減額	増減率
売上高	6,400	+645	+11%	±0	±0%
営業利益	280	+90	+48%	±0	±0%
経常利益	280	+79	+39%	±0	±0%
当期利益	197	+75	+62%	±0	±0%
一株利益	143円23銭	+54円78銭		±00円00銭	
一株配当	20円00銭	±00円00銭		±00円00銭	
ROE	7.7%	+3.0%		±0.0%	
FCF	+50	△15		+20	

・前回予想(2013年4月公表値)

・想定レート: 1USD=95円、1EUR=130円

2014年3月期業績予想(偏差説明)

売上高・営業利益 偏差説明(2013年4月決算発表時比較)

売上高 (6,400億円 → 6,400億円 ±0億円)

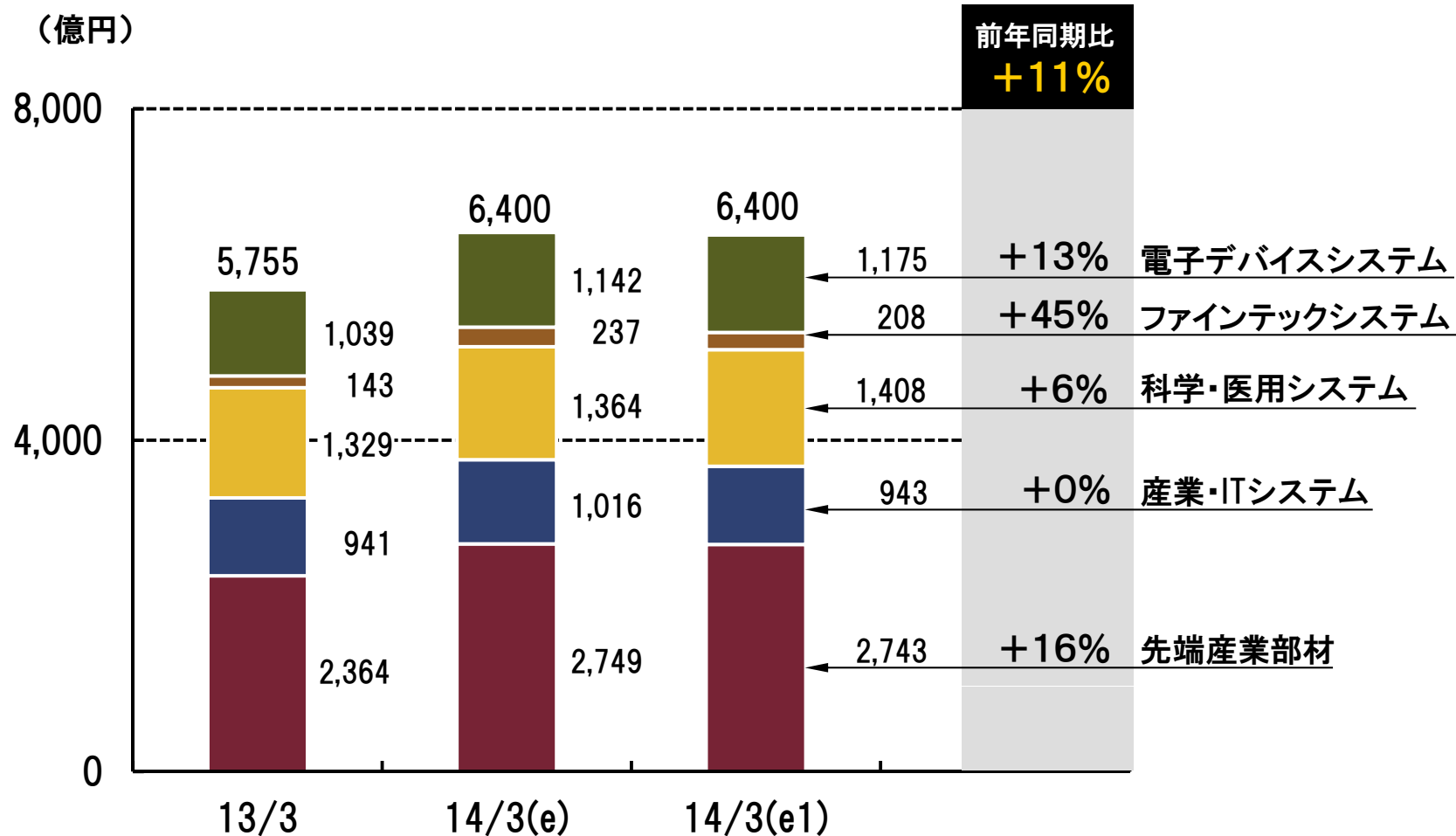
- 電子デバイスシステム: アジア・米国市場向けプロセス製造装置・評価装置の
出荷増等により33億円増加
- ファインテックシステム: FPD関連製造装置の投資計画変更等により29億円減少
- 科学・医用システム: 海外市場向け医用分析装置の回復等により44億円増加
- 産業・ITシステム: 産業用組立装置の需要減等により73億円減少

営業利益 (280億円 → 280億円 ±0億円)

- 電子デバイスシステム: 売上増加および操業度改善等により35億円増加
- ファインテックシステム: 売上減少および操業度悪化等により51億円減少
- 科学・医用システム: 売上増加等により27億円増加

2014年3月期業績予想(売上高)

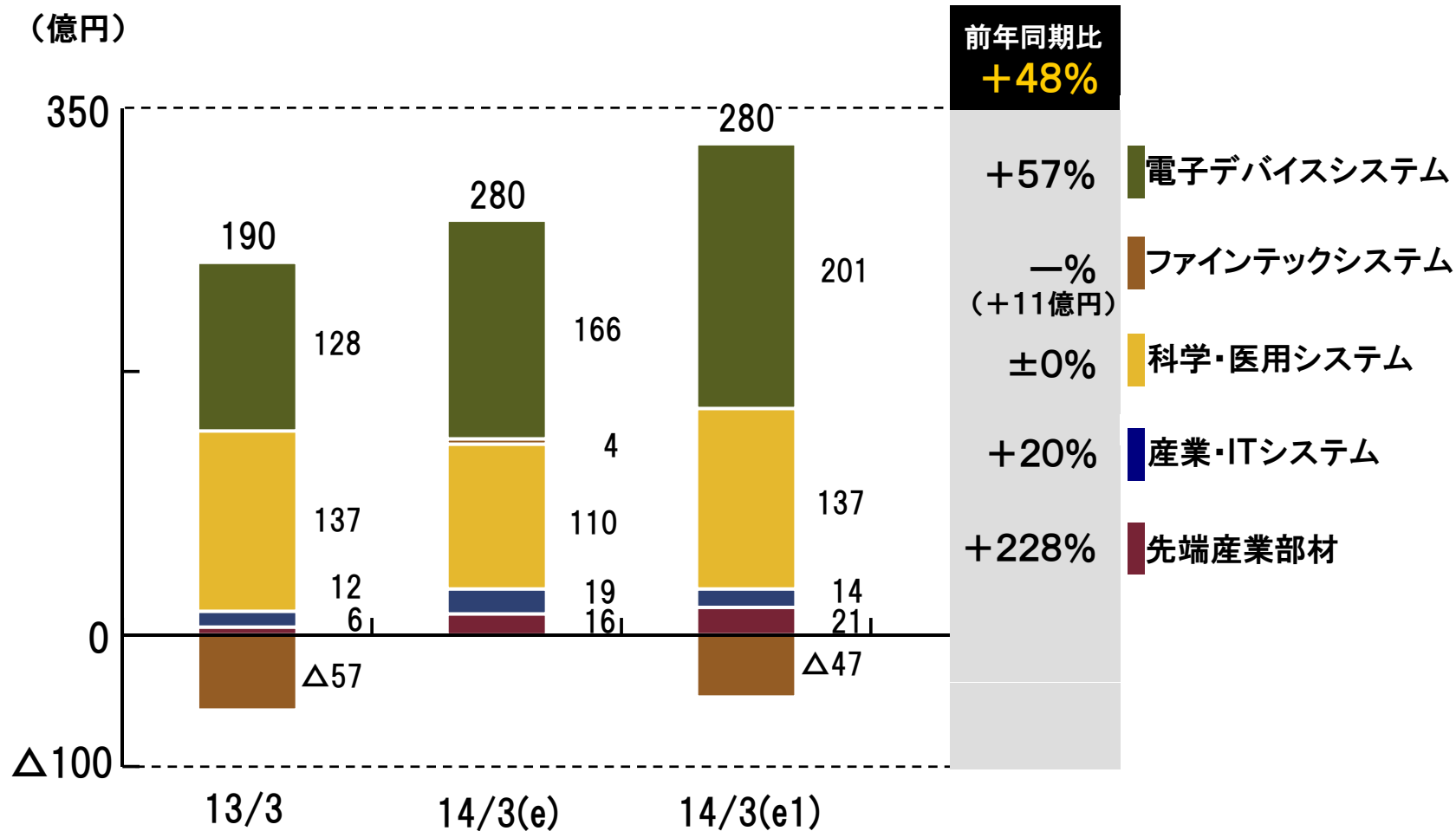
売上高



(注)合計にはセグメント間の内部取引の消去等が含まれております。

2014年3月期業績予想(営業利益)

営業利益



(注)合計にはセグメント間の内部取引の消去等が含まれております。

事業環境

半導体デバイス市場

- モバイル関連機器(スマートフォン、タブレット)やSSDの高成長に支えられ、最先端ASSP、NANDが堅調に成長(全半導体売上:前年度比+5.2%)
- PCのマイナス成長拡大(3Qは前年度比△8.6%)により、MPUは減速。DRAMは生産調整とモバイル向け低消費電力品への生産シフトで平均単価が大幅に上昇、NANDもスマートフォン向け搭載容量増で堅調に推移

半導体製造装置市場

- 2013年度前半は、ファウンドリ大手が28nm微細化投資を積極的に実施したが、メモリー投資抑制の影響を受け、低調に推移
- 2013年度後半は、ファウンドリ大手の20nm投資前倒しや、メモリーメーカーの投資再開により伸長が見込まれ、2013年度市場全体は前年度比+5%と予想

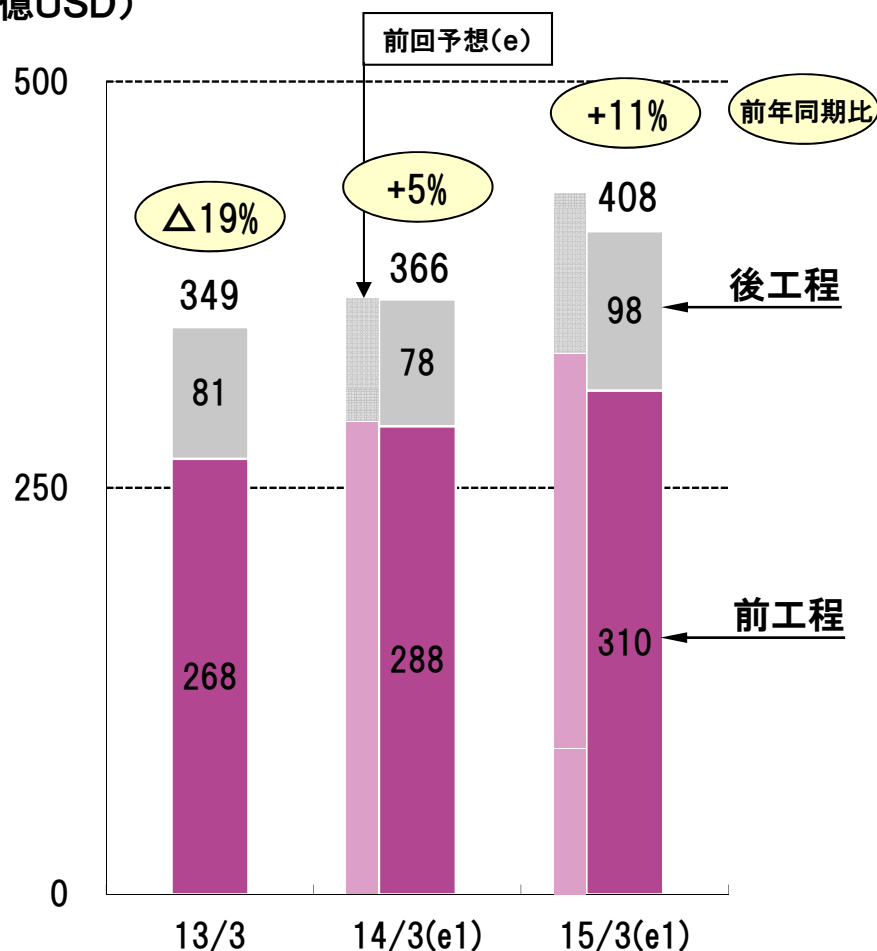
実装装置市場

- 2013年度はスマートフォン、タブレット向け需要が前年度比15%成長したが、PC向け需要台数は△12%減少し、全体として△8%と予想

2014年3月期業績予想(電子デバイスシステム)②

半導体製造装置市場

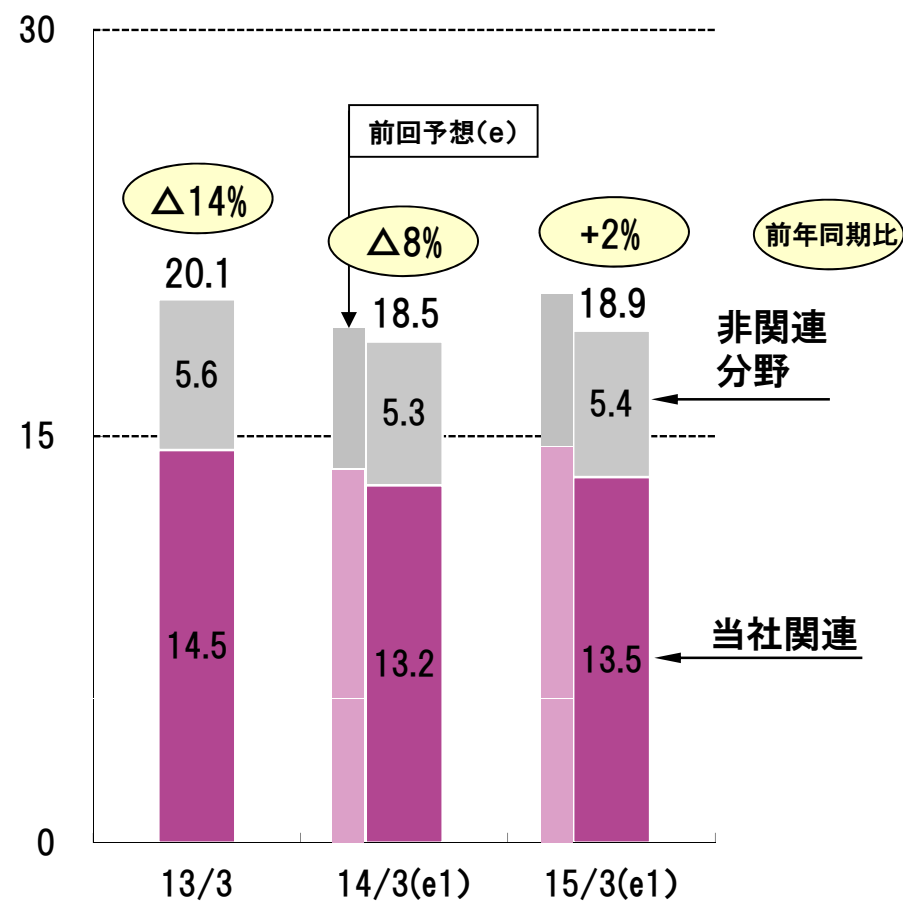
(億USD)



(出所)Gartner(13年9月)データに基づき当社作成

実装装置市場

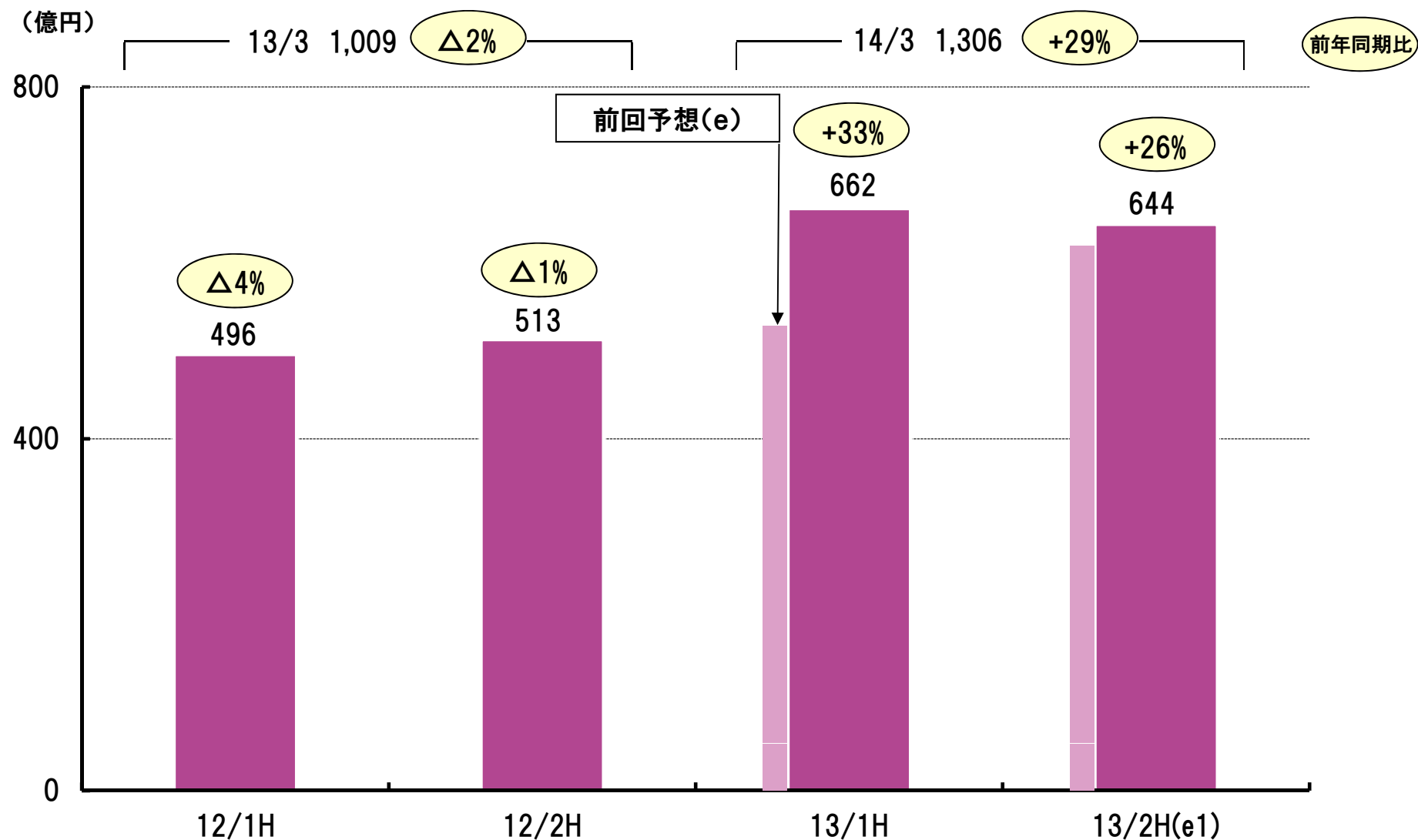
(100億円)



(出所)当社市場予測モデルにより算出

2014年3月期業績予想(電子デバイスシステム)③

受注高の推移



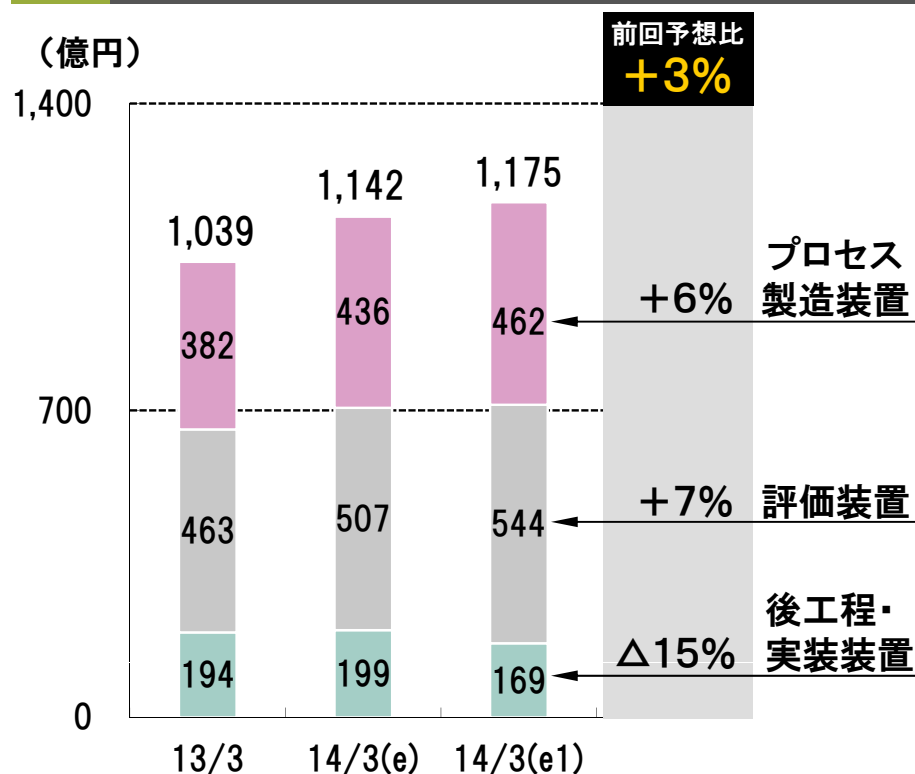
* 13/1Hの前回予想は14年3月期第1四半期決算発表時の見通し

2014年3月期業績予想(電子デバイスシステム)④

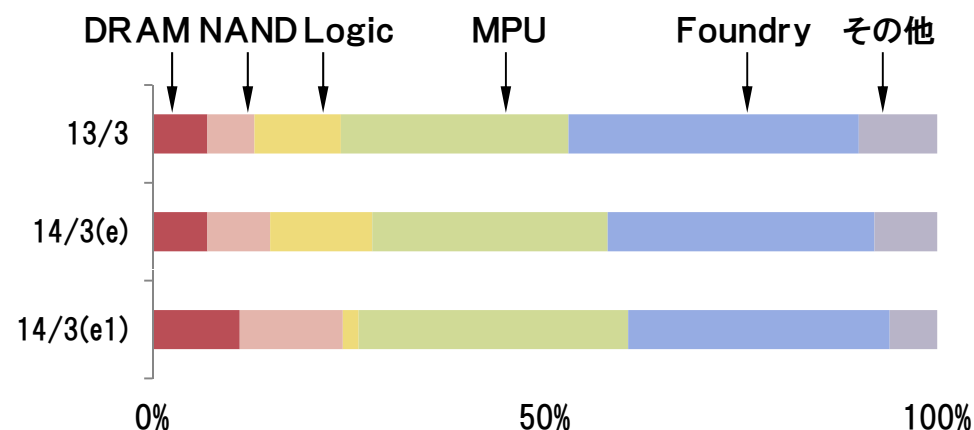
今後の取り組み

1. 最先端微細化関連事業領域での「グローバル・セグメントトップ」をめざす
2. 工程数が増加する多重露光、三次元デバイス、新材料メモリーデバイスに対応したエッチング・計測・検査装置で主要顧客内シェア拡大

主要製品群別 売上高の推移



前工程装置 分野別売上高比率



12年度:ファウンドリの大型投資により堅調に推移。
NAND関連は、投資抑制

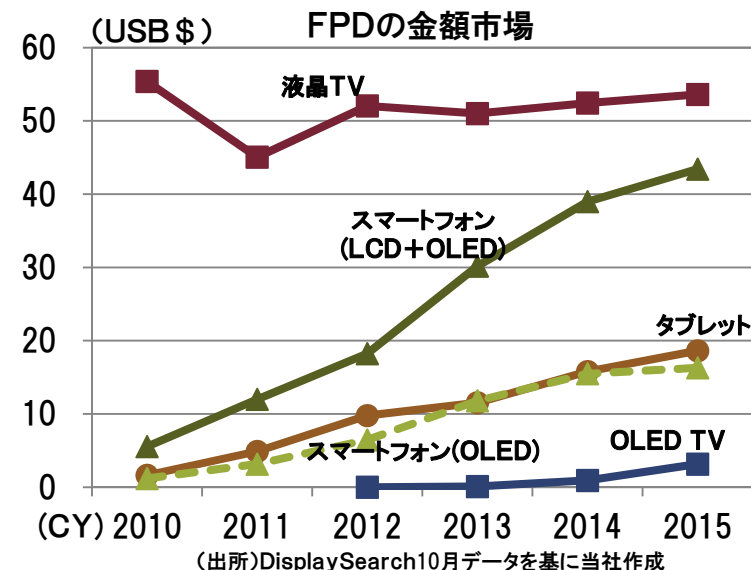
13年度:ファウンドリの投資は継続、MPUは獲得
工程拡大により売上増、ロジックは顧客
計画変更により減少。
NAND、DRAM関連の投資増加

2014年3月期業績予想(ファインテックシステム)①

事業環境

FPD業界動向

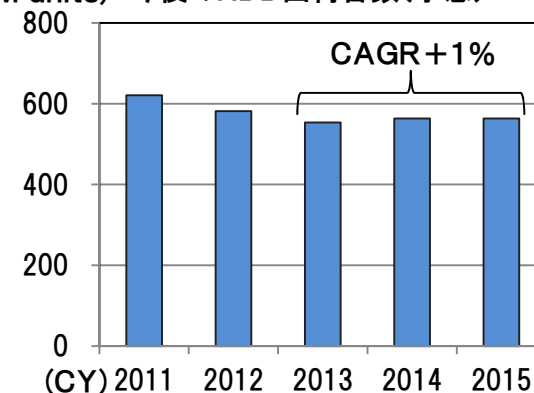
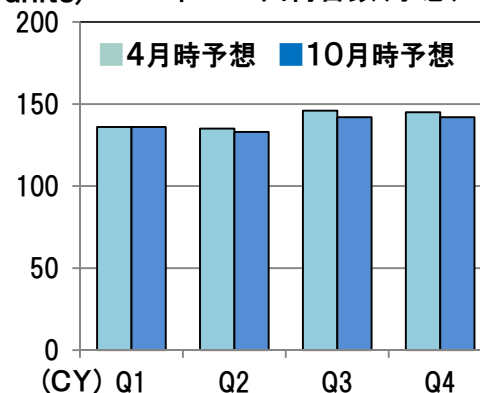
- スマートフォン市場は今後も成長の見込み
有機EL TVの立ち上がりは2015年以降
- ノートPC/モニターの市場は縮小し、
タブレットの高成長が続く見込み
- 投資は高精細・中小型パネルや有機ELと
大型パネル向けは中国で継続



HD業界動向

- タブレットの伸長、ノートPCの
停滞によりHDD出荷台数の
伸び悩みは継続
- 高密度化性能向上、歩留改善
投資に限定
- HDDの出荷台数成長率鈍化
(2013~2015年 CAGR+1%)

(M units) 2013年HDD出荷台数(予想) (M units) 今後のHDD出荷台数(予想)



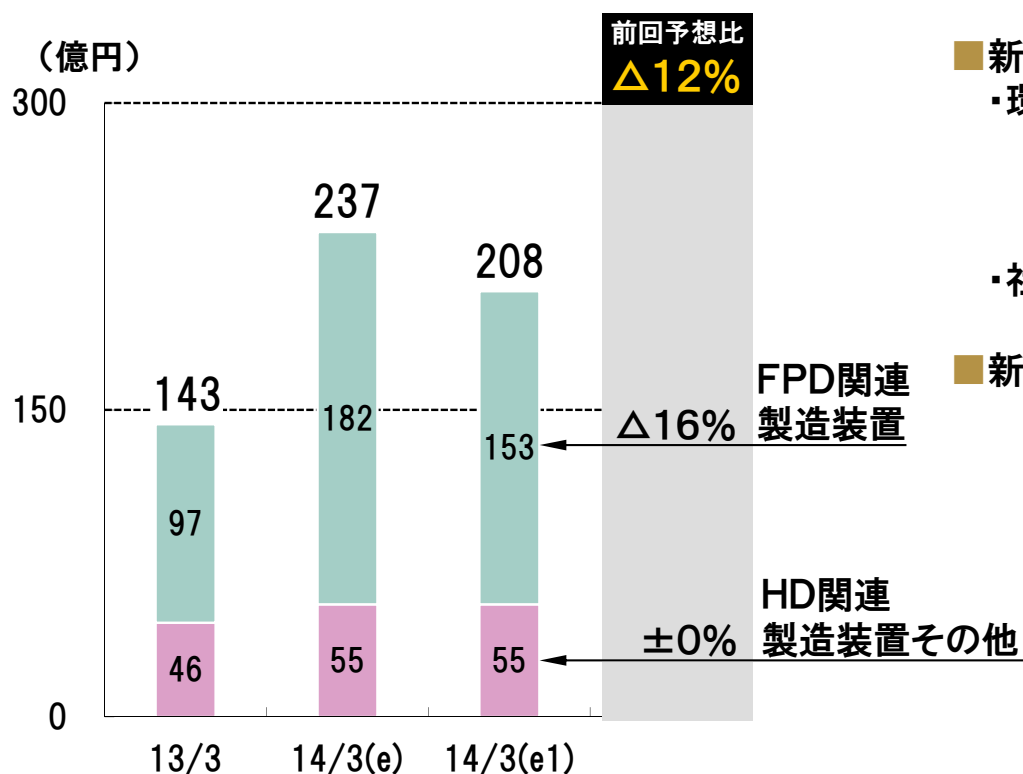
(出所) テクノ・システム・リサーチ 10月データを基に当社作成

2014年3月期業績予想(ファインテックシステム)②

今後の取り組み

1. 有機EL事業の早期立ち上げ
2. 事業ポートフォリオ転換による成長戦略の推進(新製品の投入による新規事業の立ち上げ)

主要製品群別売上高の推移



具体的アクションプラン

■新事業創生加速

・環境・新エネルギー事業:

リチウムイオン電池製造装置

プリントドエレクトロニクス分野向け製造装置

FA関連装置(自動車用)

・社会インフラ事業:鉄道関連装置、社会インフラ検査

■新技術による量産機への展開実現



タッチパネル製造装置



プリントドエレクトロニクス向け
直描露光装置

事業環境

科学関連市場

- 解析装置は、民間の設備投資が低調。日本政府の補正予算による大学・官庁等からの需要増に期待。次世代先端分野(新エネルギー・新素材)関連投資は、継続傾向。
市場全体では年率3～4%程度の伸びを予想
- 分析装置はWWで年率2～3%の微増。最も大きな市場である液体クロマトグラフは、分析時間の短縮・高感度分析ニーズから超高速装置の需要が拡大傾向。
蛍光X線分析装置は、RoHS指令等環境規制の適用拡大等により、需要拡大を予想

バイオ・メディカル市場

- 生化学・免疫分析市場全体では、年率4～5%の成長が継続。
そのうち、装置需要は、欧州市場における買い控えにより一時的に成長減速するも、中国等の新興市場の需要増等に伴い、中期的には堅調な成長を予想
- DNAシーケンサ市場は、欧米各国の研究予算削減により、2013年は3%成長。
そのうち、CE*シーケンサは、法医学個人鑑定や医学研究等の応用分野において、更新需要が堅調と予想

*CE:Capillary Electrophoresis(キャピラリー電気泳動方式)

2014年3月期業績予想(科学・医用システム)②

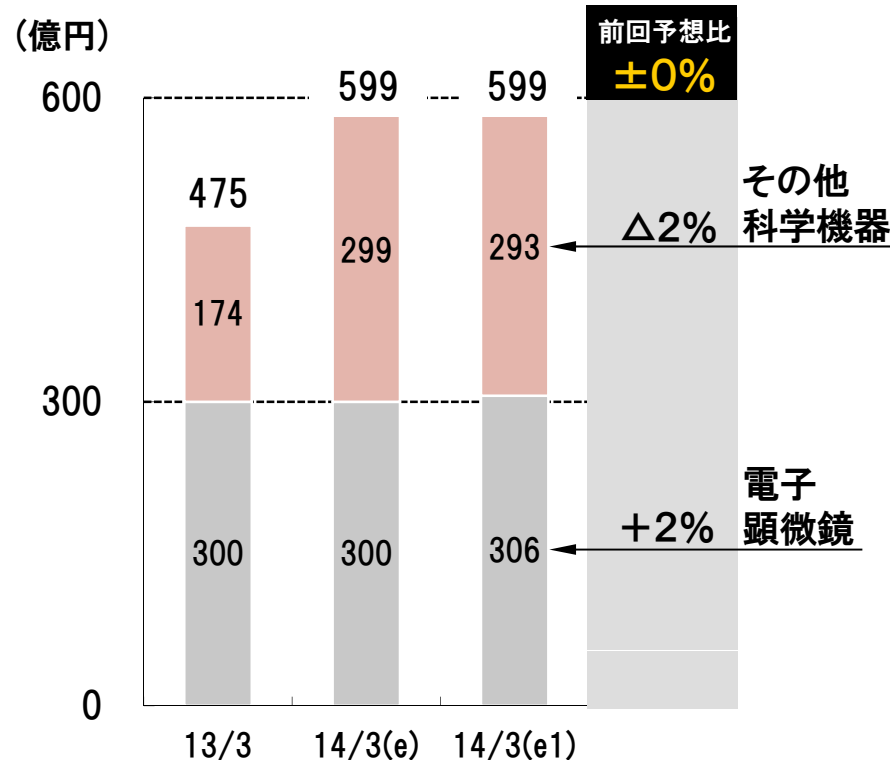
科学事業

日立ハイテク
HITACHI

今後の取り組み

1. 日立ハイテクサイエンスとのシナジーの最大化
2. 補正予算案件の取り込みおよび新製品の投入による販売拡大

売上高の推移



具体的アクションプラン

- 日立ハイテクサイエンスとのシナジーの最大化
 - ・分析事業の日立ハイテクサイエンスへの統合(2013/10月)
 - ・コア技術、製品ポートフォリオ強化による業容拡大
 - ・共同開発の推進(FIB-SEM他)
 - ・両社販売網の活用による販売拡大
- 補正予算案件の確実な取込み
- 新製品の拡販(2013年/発売月)
 - ・SEM/SU8200シリーズ(5月)
 - ・超高速液クロ/ChromasterUltra Rs(9月)
 - ・分光光度計/UH4150(9月)
 - ・蛍光X線分析/EA1000VX(9月)
 - ・ICP発光分析装置/SPECTROBLUE TI(8月)



電界放出形
走査電子顕微鏡
SU8200シリーズ

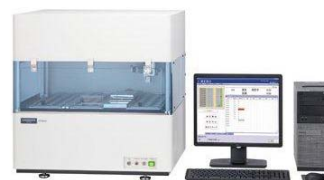
分析装置を通じた社会の「安心・安全」への取り組み

・高付加価値の専用装置を通じて、社会の基盤となる「安心・安全」へ貢献

専用機	LIB検査装置	コメ中Cd検査装置	RoHS対応検査装置
用途	リチウムイオン電池・燃料電池の品質管理にて問題となる微小金属異物を高速検出し、元素を同定	コメ等の食品に含まれるカドミウム0.4ppmを前処理なしで迅速に定量分析	カドミウム・鉛・水銀等の環境規制有害物質を簡単・迅速に非破壊で測定
特長	<ul style="list-style-type: none"> ・250×200mmの試料から20μm級の金属異物を数分で検出 ・オールインワン(異物検出～観察～元素分析まで1台の装置で対応) 	<ul style="list-style-type: none"> ・玄米をそのまま測定 ・非含有玄米で基準値以下の測定時間は約2分 ・簡単測定・簡単評価 ・自動測定 ・レポートの自動作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・高速測定 ・材料判定機能による自動測定 ・解析ツール・データ集中管理機能強化 ・RoHS対象外の元素にも対応
顧客	電池および材料メーカー等	農業試験場等	電機メーカー等



EA8000



EA1300VX



EA1000VX

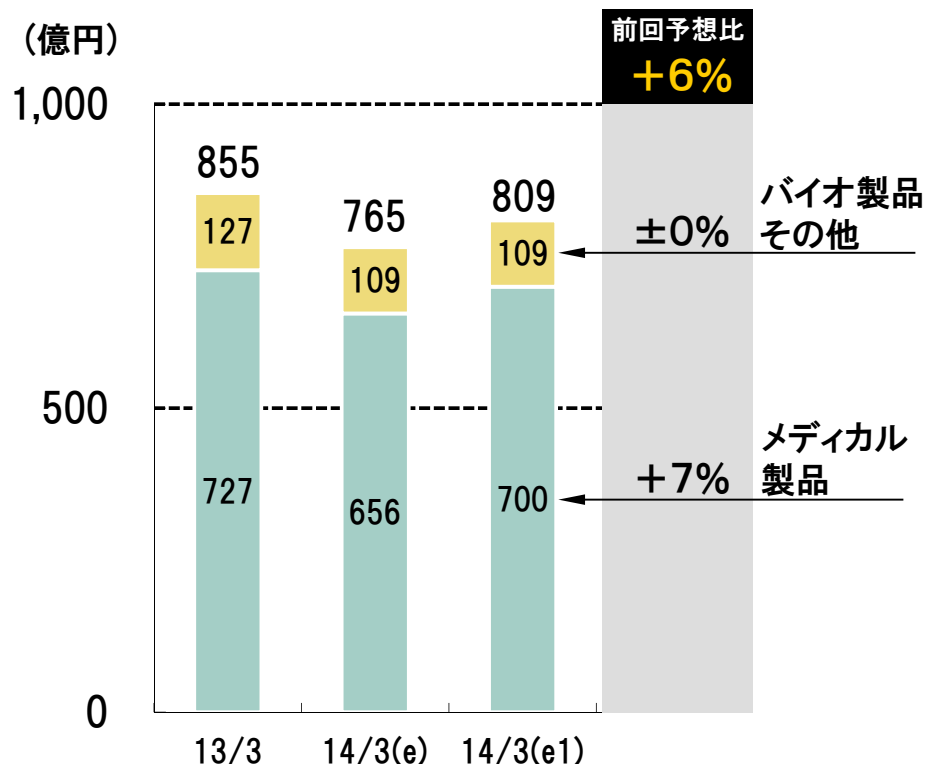
2014年3月期業績予想(科学・医用システム)④

バイオ・メディカル事業

今後の取り組み

1. 生化学・免疫自動分析装置と検体検査自動化システムとの組合せによる大・中規模病院への拡販
2. CEシーケンサの法医学個人鑑定・医学研究分野への拡販および体外診断市場向け次世代シーケンサの開発

売上高の推移



具体的アクションプラン

- 大規模病院への大・中型生化学・免疫統合システムおよび新型検体検査自動化システムのグローバル拡販
- 新製品Labospectシリーズ(生化学分析(006)および検体検査自動化システム(TS))の国内市場への拡販
- CEシーケンサの法医学個人鑑定分野および医学研究分野の更新需要獲得
- 体外診断用次世代ナノポアシーケンサの開発推進。英国Base4社との共同技術開発

臨床検査の迅速化、高効率化ソリューション提供のWW推進

- ・検体検査自動化システムLabospect TS(欧米向けcobas8100)と自社自動分析装置の組み合わせによる最適ソリューションの提供により、検査の迅速化・高効率化に貢献
- ・業界のパイオニアとして長い経験に裏付けされた業務分析力・改善提案力により、臨床検査室毎に最適なシステムを提案
- ・世界5大陸に累計1,000システム以上の納入実績

2013年度納入予定システム レイアウト(大規模病院向け)

LABOSPECT TS
前処理ブロック x 2セット



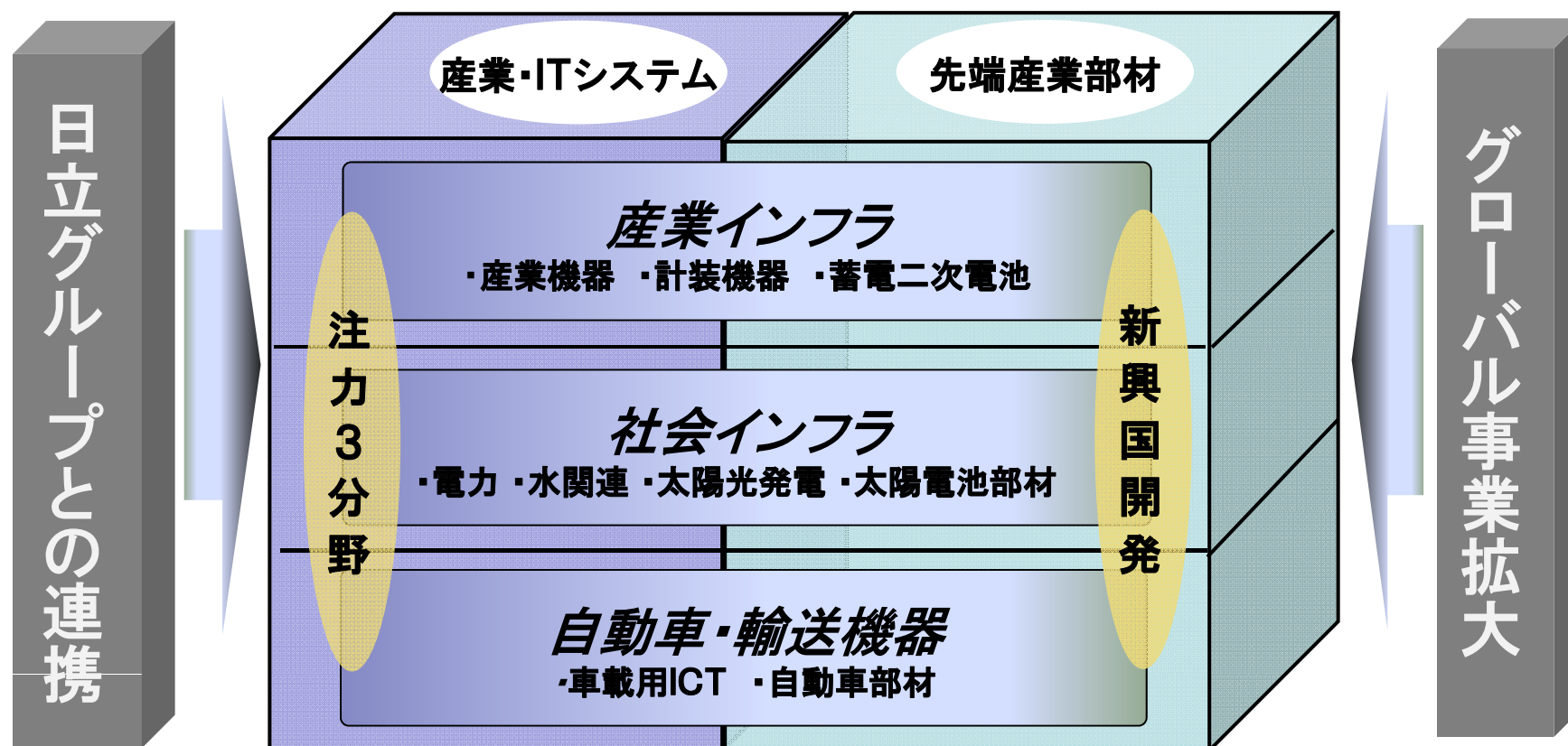
LABOSPECT TS
後処理ブロック

LABOSPECT 008
生化学自動分析装置
6000テスト/時 x 2セット

他社分析装置
x 3台

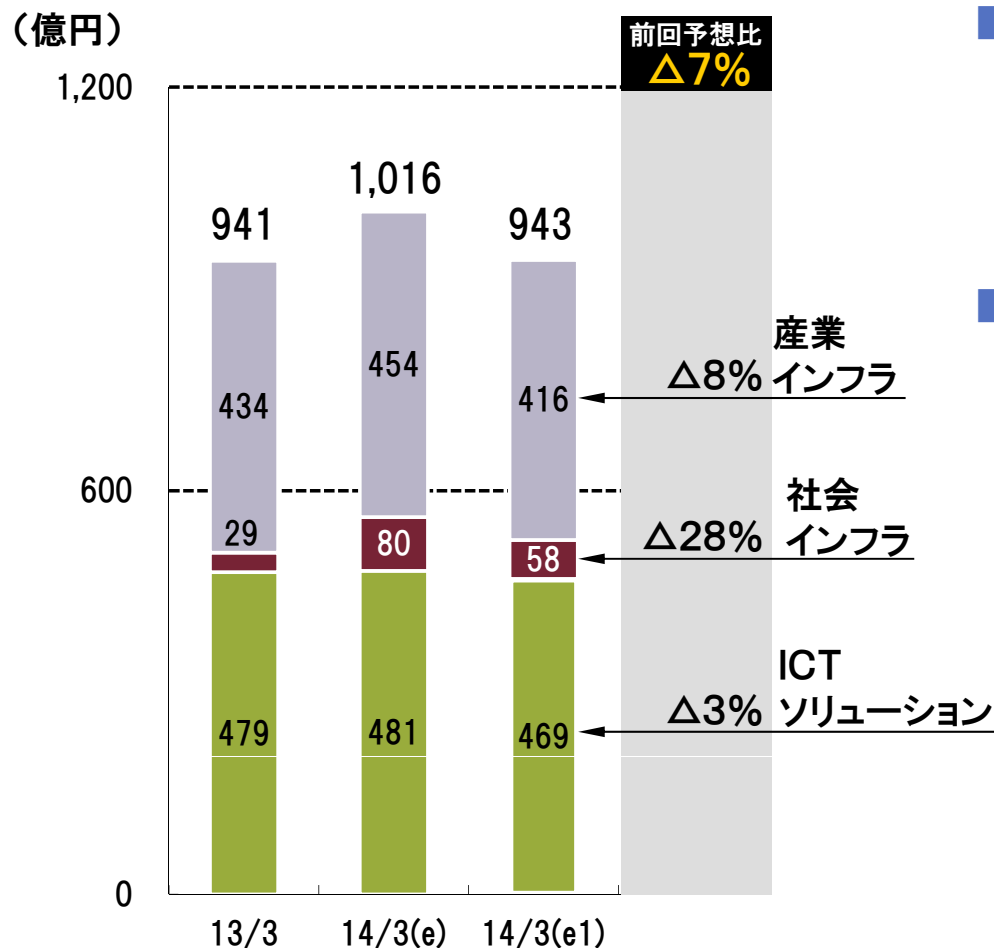
2013年度基本戦略

基本方針 注力3分野の推進による事業の拡大



2014年3月期業績予想(産業・ITシステム/先端産業部材)②

産業・ITシステム 売上高の推移



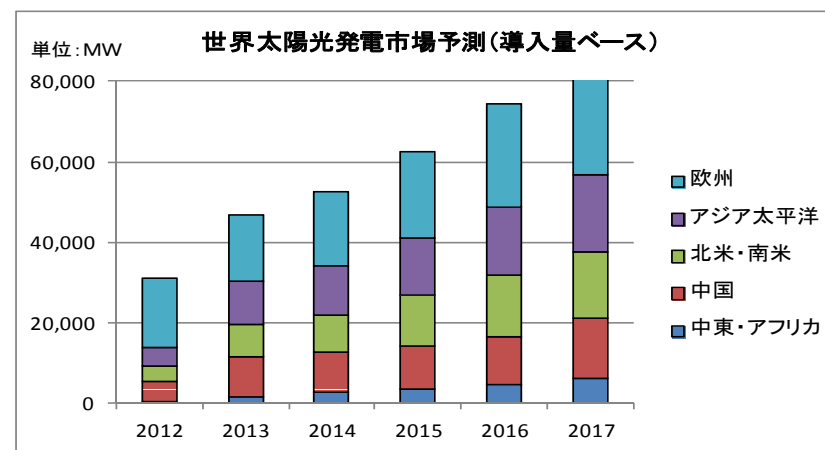
注力3分野への取組み

産業インフラ

- ・FA装置事業(自動車/機能材フィルム)の拡販
- ・計装事業の組織再編による強化、海外(中国・アセアン)展開加速

社会インフラ

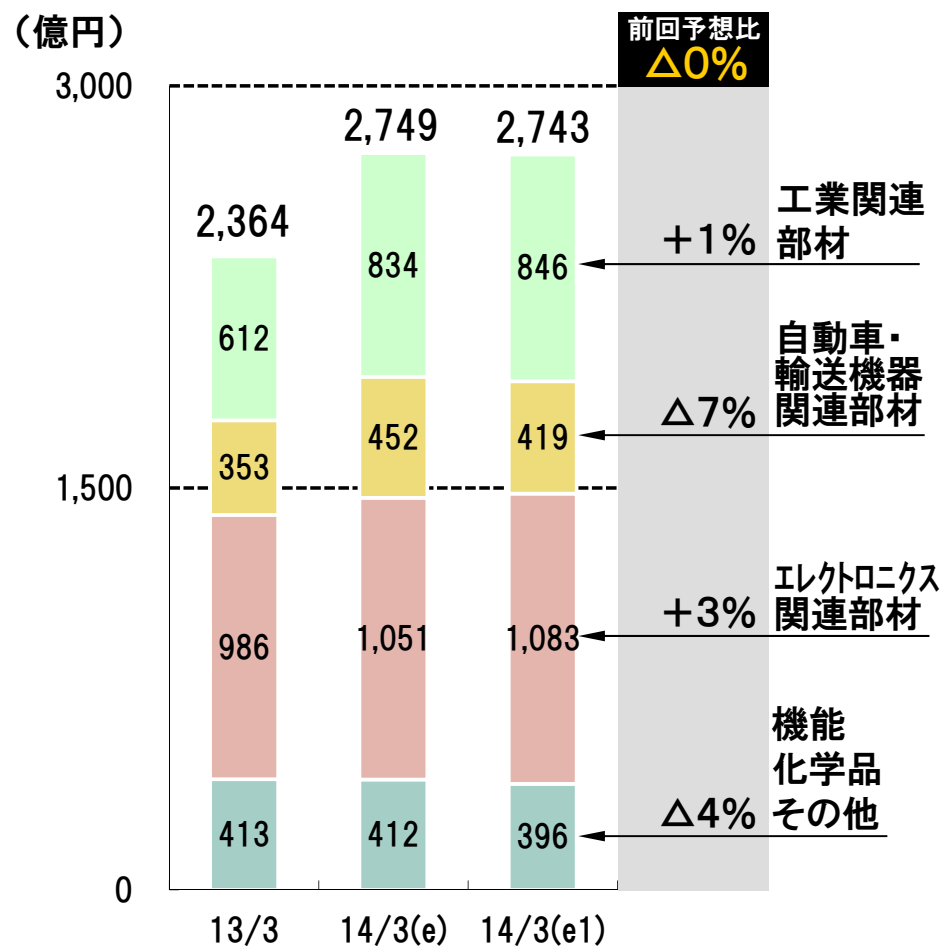
- 世界的な太陽光発電市場の拡大に対応し、海外パートナーとの連携を推進
- ・太陽光発電関連コンポーネント販売の強化
- ・インドネシア向け防災ICT事業化の推進



(出所) EPIA「GLOBAL MARKET OUTLOOK 2013-2017」

2014年3月期業績予想(産業・ITシステム/先端産業部材)③

先端産業部材 売上高の推移



注力3分野への取組み

■ 社会インフラ

移動系通信市場は、第3世代から次世代通信網(LTE)の需要が大きく拡大

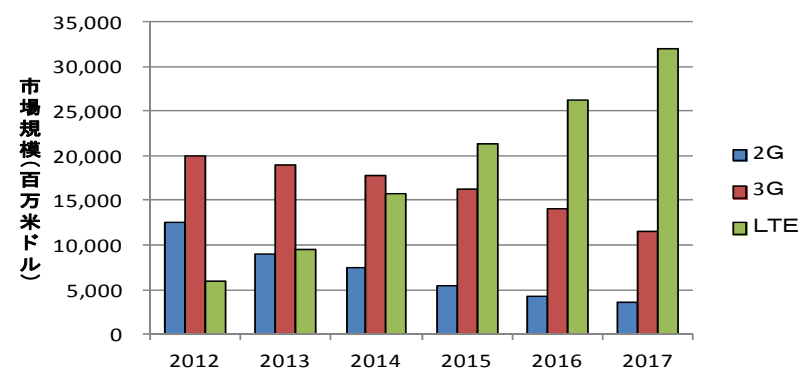
- ・端末／携帯基地局向けビジネス
- ・端末用部材および通信インフラ機器用コンポーネント販売の強化

■ 自動車・輸送機器

新興国での「需要拡大」「省エネ化」が進行

- ・積極的海外投資により、関連部材の拡販を狙う

移動系通信市場規模推移と予測



(出所) 総務省 平成25年度版 情報通信白書

IV

データ集

(注)YY/MはYY年M月期を表しています。

四半期業績の推移

(億円)

			12年 1Q	12年 2Q	12年 3Q	12年 4Q	13年 1Q	13年 2Q	
売上高 ／ 営業利益	電 子 デ バ イ ス シ ス テ ム	売上高	293	337	186	224	213	283	
		営業利益	61	52	4	11	13	39	
	フ ァ イ ン テ ッ ク シ ス テ ム	売上高	25	48	22	48	12	28	
		営業利益	△14	△14	△12	△17	△20	△15	
	科 学 ・ 医 用 シ ス テ ム	売上高	355	345	241	388	291	371	
		営業利益	52	32	9	44	16	43	
	産 業 ・ I T シ ス テ ム	売上高	259	279	183	221	171	258	
		営業利益	△2	6	0	7	△9	4	
	先 端 産 業 部 材	売上高	605	592	583	584	642	667	
		営業利益	2	1	2	△0	6	4	
	そ の 他 ・ 調 整 額	売上高	△15	△17	△14	△17	△15	△15	
		営業利益	△6	△13	△3	△16	△7	△12	
	合 計		売上高	1,523	1,584	1,200	1,447	1,315	1,592
			営業利益	94	66	1	29	0	63
経常利益			99	66	3	32	5	62	
当期利益			62	49	3	8	△15	51	

設備投資額・減価償却費・研究開発費/地域別売上高

■設備投資額・減価償却費・研究開発費

(億円)

	12/1H	13/1H	前年 同期比	13/3	14/3 (e1)	前年 同期比
設備投資額	56	117	+108%	117	239	+104%
減価償却費	37	44	+20%	78	99	+27%
研究開発費	110	103	△7%	218	230	+6%

(注)設備投資額は取得ベースにて記載

■地域別売上高

(億円)

		日本	北米	欧州	アジア	中国大陸	その他	計
12/1H	売上高	1,253	311	411	1,015	439	117	3,107
	構成比率	40.3%	10.0%	13.2%	32.7%	14.1%	3.8%	100.0%
13/1H	売上高	1,180	431	331	921	397	45	2,907
	構成比率	40.6%	14.8%	11.4%	31.7%	13.7%	1.5%	100.0%

(注)「欧州・アジア・その他」に含む国および地域を2013年度より一部変更(12/1Hは修正後実績)

Copyright©2013 Hitachi High-Technologies Corporation All Rights Reserved.

主要製品群別売上高の状況

	12年1Q	12年2Q	12年3Q	12年4Q	13年1Q	13年2Q
電子デバイスシステム	293	337	186	224	213	283
プロセス製造装置	113	90	78	102	90	110
評価装置	138	156	71	98	82	119
後工程・実装装置	42	90	37	24	41	54
ファインテックシステム	25	48	22	48	12	28
FPD関連製造装置	16	34	14	34	9	15
HD関連製造装置その他	10	15	8	14	3	13
科学・医用システム	355	345	241	388	291	371
電子顕微鏡	67	72	54	107	38	78
その他科学機器	26	44	29	75	51	65
メディカル製品	220	201	131	175	171	195
バイオ製品その他	42	28	28	29	31	33
産業・ITシステム	259	279	183	221	171	258
産業インフラ	96	142	76	121	61	93
社会インフラ	2	11	5	10	5	6
ICTソリューション	161	125	102	90	105	159
先端産業部材	605	592	583	584	642	667
工業関連部材	154	155	143	160	188	192
自動車・輸送機器関連部材	84	81	91	96	90	98
エレクトロニクス関連部材	257	247	254	229	277	278
機能化学品その他	110	110	95	98	86	98

<資料取り扱い上の注意>

- ・ 本プレゼンテーションで述べられている決算概要および業績予想は、注記がある場合を除き、すべて連結であり、億円未満を四捨五入しています。
- ・ 当社が開示する将来の業績見通しや戦略等に関する予想は、開示時点で知りうる情報や合理的と思われる前提をもとに策定しており、さまざまな外部要因による直接的・間接的な影響により、実際の当社の業績等が開示内容と異なる可能性があります。但し、開示内容との間に大きな乖離がある場合は、法令や証券取引所が定める適時開示規則並びに当社の自主的な判断に基づき、その都度開示していきます。

また、この資料は投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。銘柄の選択、投資の最終決定は、ご自身の判断でなさるようお願いいたします。



END

2014年3月期第2四半期決算説明会資料

お問合せ先
CSR本部CSR・コーポレートコミュニケーション部
部長 加藤 弘之
TEL:03-3504-5138 FAX:03-3504-5943
E-mail:kato-hiroyuki@nst.hitachi-hitec.com

Creative Minds. Innovative Solutions.